

医療的ケアを必要とする人及びその家族の暮らしに関する調査結果

医療的ケアが必要な人及びその家族の暮らしに関し、現状と課題を把握するために、令和3～4年度にかけてアンケート及びヒアリング調査を実施した。その結果を踏まえて、課題を整理し、今後の取組の方向性をまとめた。本結果は、今後の施策検討の参考にするほか、市民への周知に活用する。

本調査では、在宅で生活する医療的ケアを必要とする人及びその家族のうち、アンケートに11名、ヒアリングに8名の方に御協力いただいた。

01 医療的ケアの実態

ケア、本人の見守り、外出時等あらゆる場面で人手が必要であり、介護者の負担が大きい。

- ・24時間の見守り
- ・家族で担うケアが多い
- ・日常動作に介助者が複数必要

02 暮らしへの影響・困りごと

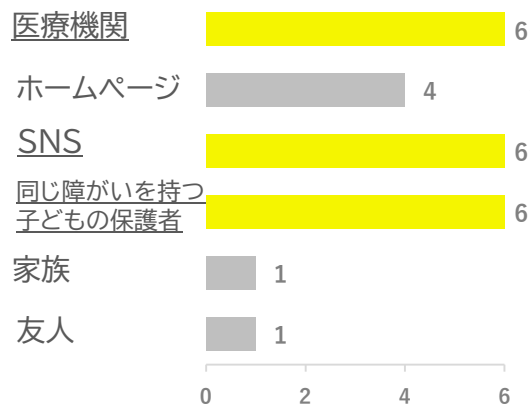
ケアがあることにより、暮らしに制限を受ける。

- ・就労
- ・きょうだい児への関わり・養育
- ・社会参加(友人・近所のと付き合い等)
- ・介護者の健康
- ・外出

介護者の多大な負担

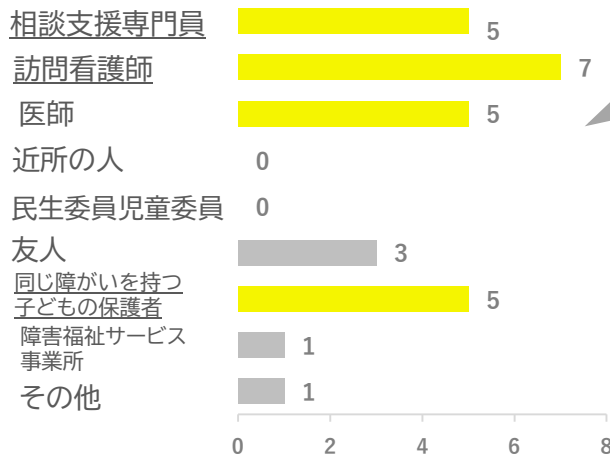
- ・心理的負担
(眠れない・不安、ストレス反応)
- ・身体的負担
(疲労、身体の故障)
- ・経済的負担
(日常のケア用品、災害時の備え)

03 支援制度・サービス等の情報源



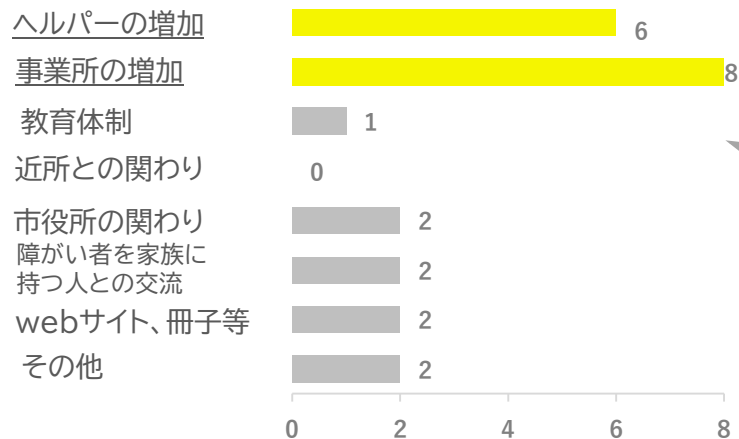
- 情報源は、医療機関、同じ障がいを持つ保護者からが多い。
- SNS及びインターネットからの情報も多く活用されている。

04 相談先



身近な医療関係者、同じ障がいをもつ保護者、相談支援専門員がほとんどであり、近所の人や民生委員・児童委員といった地域の人への相談はしていない。

05 医療的ケア児者及びその家族の求めること



□ 安心して在宅生活を送るため、家族以外にケアを担うヘルパーの増加や、日中の身近な通所先の増加が求められている。

□ 制度の利用等に必要なとなる市役所との関わりや市の体制充実も求められる。

06 市及び支援関係者に求められること

- 適切な把握・情報提供
- 相談先の明確化
- 市役所職員の人材育成

〈その他〉

- ・学齢期後のサービス移行
- ・医療的ケア児者の生活実態の周知
- ・緊急時・災害時への対策

07 支援関係者の現状と課題

医療的ケア児が在籍する保育園・小学校

受入れのための人員体制、施設環境、関係者の対応経験・知識の不足が挙げられ、それによる現場の関係者の負担感も大きくなっている。

医療的ケア児が在籍する障がい事業所

経営上、利用者の安全性及び質の向上のための看護師配置の難しさがあることや、長期にわたって同じ支援者が関わる必要性が挙げられた。

課題のまとめ

医療的ケア児者及びその家族の課題

- ・医療的ケア児者が安心して日中過ごすことができる場所が少ない。
- ・介護者の経済的・身体的・心理的負担が大きい。



今後の取組の方向性

- ・医療的ケア児者を受け入れる障がい関係事業所への補助制度
- ・事業所内の人材育成に対する補助制度の検討
- ・家族の在宅レスパイト(休息)ケアの施策事業の検討
- ・当事者や家族同士の交流やネットワークづくりの支援
- ・本人及び関係者による避難訓練の実施

市における課題

- ・市における一貫した対応方針がない。
- ・財源及び人材の確保が難しい。
- ・対応経験及びノウハウが不足している。



- ・長久手市における医療的ケアが必要な人への対応方針の検討
- ・既存の「長久手市医療的ケア児等ケース会議」、「長久手市療育支援個別ケース等協議会」の機能強化
- ・市役所職員に対する医療的ケアが必要な人への理解促進を目的とする研修等の実施